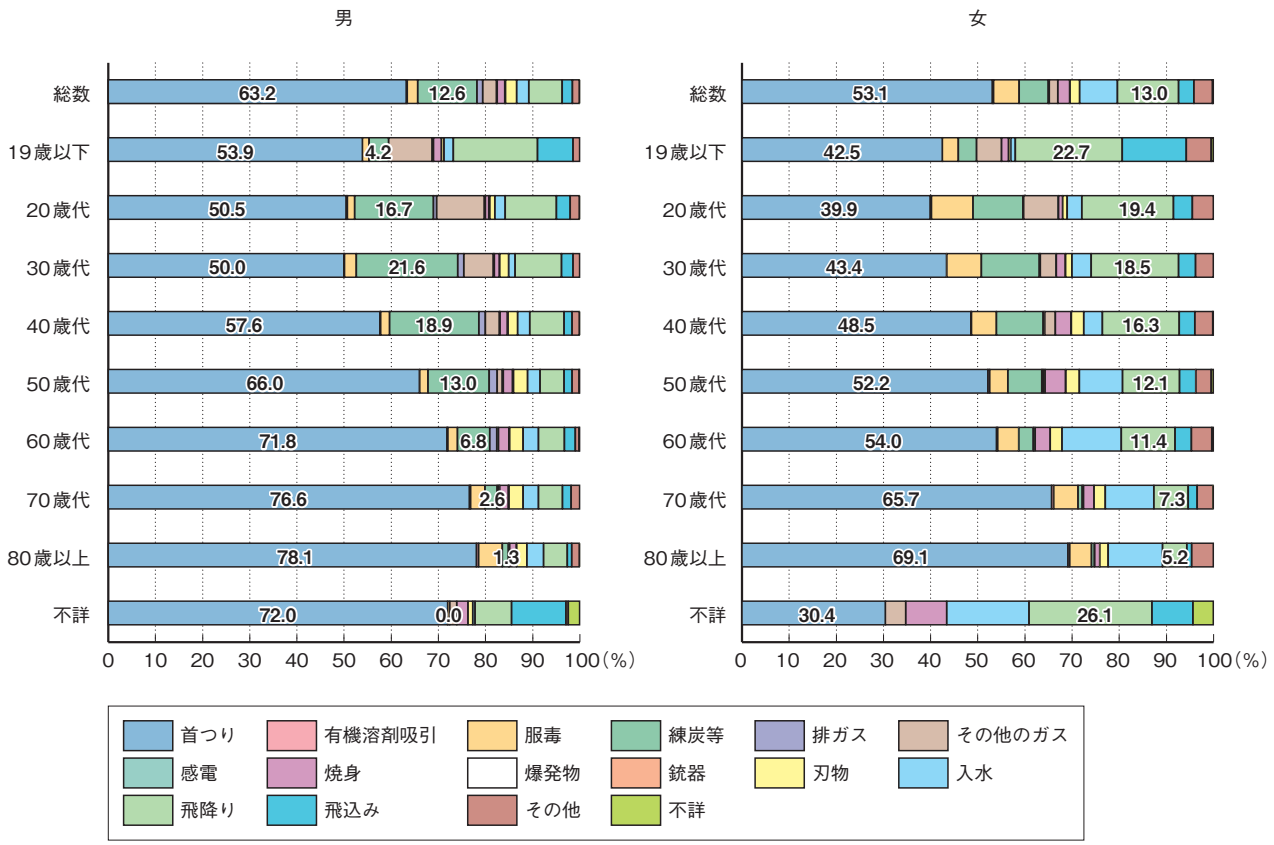
10 手段別の自殺の状況

平成21年における手段別の自殺の状況について自殺統計によれば（第１－33図）、総数では男女とも「首つり」が最も多く、半数を超えている。男性では「首つり」１万4,842人（63.2％）が最も多く、次いで「練炭等」2,959人（12.6％）、「飛降り」1,653人（7.0％）となっており、女性では「首つり」4,974人（53.1％）が最も多く、次いで「飛降り」1,219人（13.0％）、「入水」748人（8.0％）となっている。

また、男女別・年齢階級別でみると、男女とも全ての階級で「首つり」が最も多い。男性については、「首つり」に次いで、19歳以下では「飛降り」、「その他のガス」の順で多く、20歳代では「練炭等」、「飛降り」の順で多くなっている。30歳代～60歳代では「練炭等」、「飛降り」の順で多くなっており、70歳代では「飛降り」、「入水」、80歳以上では「飛降り」、「服毒」の順で多くなっている。女性については、「首つり」に次いで、50歳代以下は「飛降り」が多く、60歳代以上は「入水」が多くなっている。

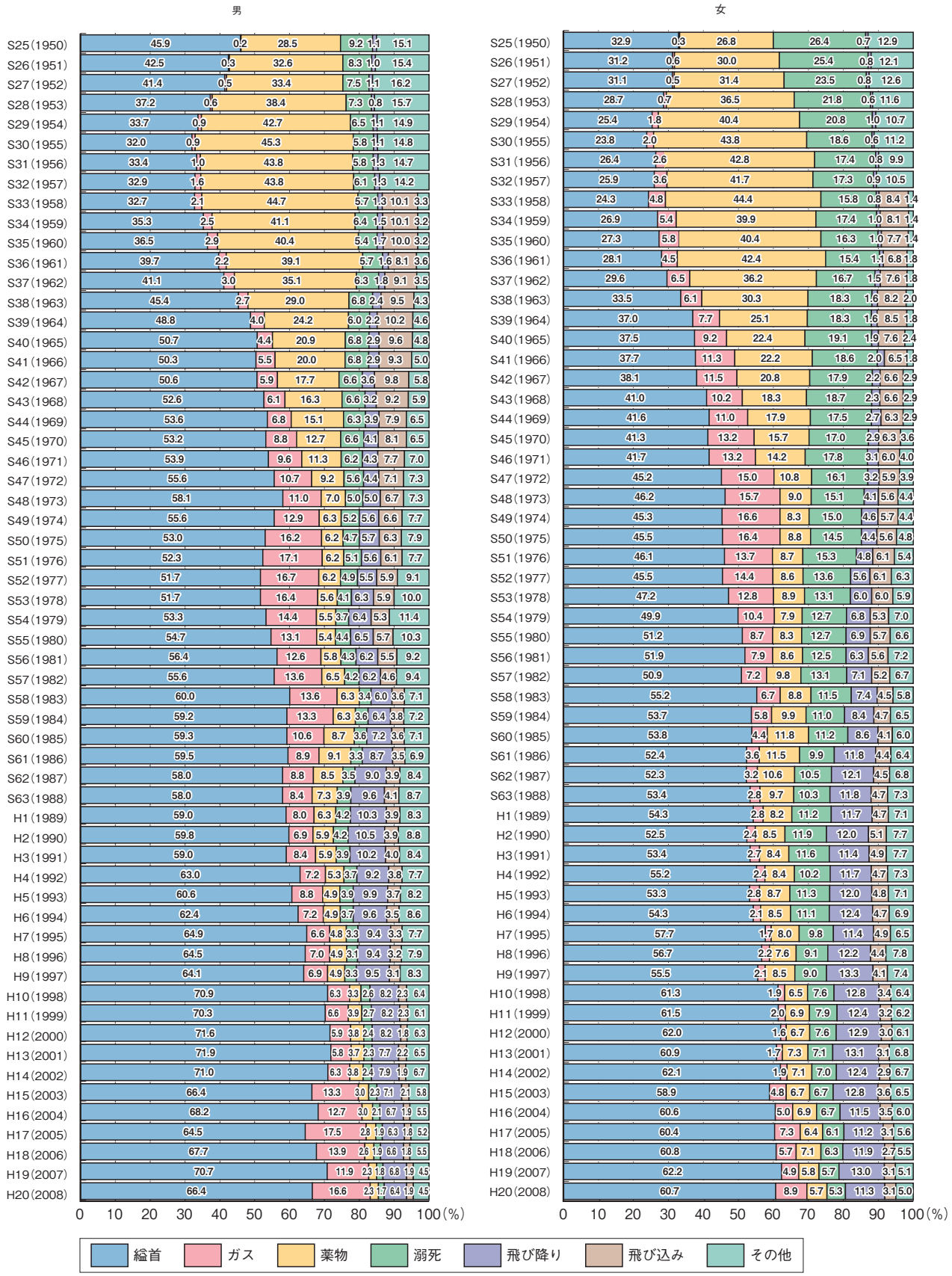
第１-33図　平成21年における男女別・年齢階級別（10歳階級）・自殺の手段別の自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より内閣府作成

次に、手段別の推移について、人口動態統計によれば（第１－34図）、昭和20年代後半～30年代半ばにかけては男女ともに「薬物」が最も多かったが、毒物・劇物の取扱に対する法規制の強化と指導・取締の徹底により、その後は「薬物」が激減した。40年代以降は「縊首」が増加し、男女とも「縊首」が最も多い傾向が続いている。

第1-34図　手段別の自殺者数の構成割合



注意：1）昭和25年～32年と平成7年以降の「故意の自傷の続発・後遺症」は自殺の合計には含まない。
　　2）昭和25年～32年の「飛び込み」は分類されず、「その他」に含まれる。

資料：平成15年までは厚生労働省「人口動態統計特殊報告」、
　　平成16年以降は厚生労働省「人口動態統計」より内閣府作成